

# 改訂版 高校生の音楽1

「Heidenröslein」で  
芸術の扉を開く

1 **Heidenröslein**  
野ばら

シューベルトのHeidenröslein (p.31)

2 と主音

五度圏図 (p.117)

3 Heidenröslein  
野ばら

Heidenröslein ト長調 (教師用指導書 楽譜資料集)  
※画像は制作中のサンプルです

先生：シューベルトの「Heidenröslein」①、「野ばら」です。これ何調？

生徒：覚えてないけど、五度圏図②を見ればいいんですよね。ええと、フラットが三つで…

生徒：明るい感じだから長調で、変ホ長調です。こんな風にぐるっと曲がってる楽譜ってめずらしいし、五度圏図って、なんかきれい。

先生：五度圏図に美を感じるとはすばらしい感性だ。で、この楽譜は変ホ長調だけど、右下に「原調：ト長調」って書いてあるよね。

生徒：原調って、もともとはト長調で作られた曲ってことか。

先生：そう、言わば「原キー」だね。原調でも歌ってみよう。(楽譜資料集の移調譜③をコピーして配布) ♪～ 何か違う？

生徒：変ホ長調より音が高いだけじゃなくて、もっと軽やかかも。

先生：この軽やかさを、シューベルトは出したかったんだね。ちょっと寄り道しよう。このドイツ語の詩を作ったゲーテさんは鑑賞ページにも登場します。どーこだ。

生徒：交響詩「魔法使いの弟子」④！ ゲーテさん、売れっ子だわ。

先生：だね。次は生没年に着目。ゲーテとシューベルトは？ ついでにヴェルナーは？

生徒：みんな同じ時代の人。

先生：ゲーテと、「魔法使いの弟子」を作曲したデュカースは？

生徒：かぶってない！

生徒：ゲーテってデュカースと何歳違い？

生徒：116歳。ほくらの116歳上っていうと…

先生：おおよそ、1885年生まれの北原白秋や1886年生まれの石川啄木の作品に曲をつけるようなものだね。

生徒：白秋は「待ちぼうけ」⑤でやりましたね。言葉も内容もわかりやすいし、それほど古くさい感じがしなかった。デュカースもゲーテの詩に対して同じように感じたのかな。

先生：想像が膨らむね。そうそう、啄木はいま2年生が歌ってるんだ。「初恋」⑥っていう、とっても素敵な曲で、人気があるんだよ。さて、「恋」つながりってわけじゃないけど、「野ばら」と同じくシューベルトが作曲した歌曲集「美しき水車屋の娘」⑦を聴いてみよう。「さすらい」⑧をどうぞ。♪～

生徒：これ、恋の歌なんですか。めっちゃ弾みますね。浮かれてるみたい。

生徒：「美しき」ってくらいだから、美人相手に盛り上がってるよね。

先生：言いたい放題だなあ、まだ恋の場面じゃないよ。でも、そのくらい身近に感じてもらえると嬉しいよ。芸術って、生身の人間のものだからね。

4 交響詩「魔法使いの弟子」  
ポール・デュカース Paul Dukas (1862-1935) フランス

交響詩「魔法使いの弟子」(p.134)

5 待ちぼうけ  
北原白秋 作詞 石川啄木 作曲

待ちぼうけ (p.66)

6 初恋  
北原白秋 作詞 石川啄木 作曲

初恋 (高校生の音楽2 p.46)

7 歌曲集「美しき水車屋の娘」D.795  
フランツ・シューベルト Franz Schubert (1797-1828) オーストリア

歌曲集「美しき水車屋の娘」(p.123)

8 曲「さすらい」  
Mäßig geschwind

歌曲集「美しき水車屋の娘」第1曲「さすらい」(p.123)

“色あせない名曲をぐっと身近に感じよう”